ホームページ

「Z」キーを押しながら…

整理課　武田美紀

ＫＩＳＳには検索結果の保存機能があって、集合検索等の使用後にちゃんと削除しておけば、皆さん気持ちよく使えますが、反面、「労働条件や福利厚生について課題が出てるな」とか「六法を探している人が多いな」とかわかるので、図書館員にとって貴重な情報源になります。それで、３階閲覧室に行く度に検索結果を見るようにしているのですが、片っ端から端末機の前に立っては画面をじーっと眺めているのは、端目には胡乱に見えるのではと、ちょっと気がかりです。

「胡乱な」図書館員が画面を見ると、分類の項目で件名を検索していたり、スコットを探すのに「スコット」と入力していたり、「なつめそうせき」と入力していたり、「インターネット」の「ー」（長音）が「－」（ハイフン）だったりしています。図書館員は思います。「半導体じゃなく＜４２８．８＞っていれてくれたらなあ」とか、「西洋人は原綴（Ｓcott）なんだけどなあ」とか、「ヨミでの検索は姓名の間に“,”入れてね」とか…・。「そうしたら、０件じゃないのに。」残念で残念で、あるのがわかっている時は尚更です。検索語を入力する画面に注意点をあげています。長音はここだと貼ってあります。「やり直して下さい」と出たら取消キーを押してくださいとも…。表示を見てくれたらなあ。この本もこの本も、本当はあるんだけど…。この人、結局どうしたかなあ。公共図書館に行ったかな。探すのだけはやめないで、いいレポートを書いてくれてたらいいけど。余計なお世話なことを考えながら図書館員は、「せめて表示、見てほしいなあ。」しみじみと「ｚ」キー（削除コード）を押すのでした。

非活字中毒症諸君へ

庶務課　仁田 学

活字中毒症。これは御存知、椎名誠著作の「もだえ苦しむ活字中毒者地獄の味噌蔵」に登場する、形態不問だが活字に触れなければ、禁断症状を引き起こす架空の病気である。図書館に勤める私は、幸か不幸かこの病にまだ犯されていない。むしろ、逆の非活字中毒症である。

活字離れが嘆かれる時流に乗ってか乗らずか、恥ずかしい話、前述の小説にしても、以前深夜ローカルのテレビ番組で知った次第である。

就職してからは種々の事情により、実用書以外のものはほとんど読まなくなったのだが、唯一読んだものを挙げると、中島らも氏の「しりとりエッセイ」（講談社文庫）がある。

この本はタイトルからも察しがつくように、お題を“しりとり”しながらエッセイを綴るというものである。以前からこのような企画本が存在したのかは定かではないが、非活字中毒症の私にとっては鮮烈な印象を受けたのを記憶している。どこだかの新聞紙上に連載されていたようで、文字数にしてわずかばかりの文章ではあるが、（本来エッセイとはそのようなものなのか？）その卓越した知識と文才が十分に感じられる文体、著者独特のユーモア、何よりも簡単明瞭なところがよかった。だが、あとがきに